

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

1 実施日 令和4年4月19日（火）

2 調査対象 第6学年児童10名

3 調査内容

（1）教科に関する調査（国語、算数、理科）

①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

上記①と②を一体的に問う。

（2）学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

4 調査結果

（1）教科に関する調査

国語は、全国平均を下回っていました。
算数は、全国平均を下回っていました。
理科は、全国平均を上回っていました。

（2）児童質問紙調査

成果が見られた項目

- 自分には、よいところがあると思いますか。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか。
- 自分でやると決めたことは、やりとげようとしていますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

課題が見られた項目

- 月曜日から金曜日、一日どのくらいテレビゲームをしますか。
- 学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、一日当たりどのくらい勉強しますか。
- 学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、一日当たりどのくらい読書をしますか。

5 学力向上の取組

本校では今後、国語・算数・理科の学習において児童一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に取り組んでいきます。

（1）国語科

- ① 「主体的な学び」：単元の内容や時間のまとまりを意識し、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする時間を確保する。特に「何を、どのように学んだのか」を振り返らせることで、学びを深め、次の学びへ向かう力を育成する。
- ② 「対話的な学び」：対話的な学びとは、「他者との対話」「作品との対話」「自己との対話」であり、それらを整理し直し、多様な言語活動を授業に盛り込む。
- ③ 「深い学び」：多様な言語活動を駆使し、自分の思いや考えを広げ深める学習活動を構築していく。

(2) 算数科

- ① 児童から「問い」を引き出し、児童が主体的に問題解決できるように工夫する。
- ② 互いの思いや考えを共有し、総合的・発展的に考察できるように話し合いをコーディネートする。
- ③ 問題解決の過程で、数学的な見方・考え方を適切に振り返らせ、児童がそのよさを自覚できるようにする。

(3) 理科

- ① 児童が「解決してみたい」という思いを高め、児童が自ら見出した問題となるように導入を工夫する。
- ② 児童が話したくなるなど、児童が主体的に問題解決の過程を進めることができるよう工夫する。
- ③ 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、さらに新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせているかなどの視点から、授業改善を図る。

6 保護者・地域の皆様へ

子どもの学習環境や生活環境づくりについて、保護者や地域の方々のご協力をお願いいたします。

(1) 家庭学習について

- 子どもが家庭で落ち着いて学習できる場と時間を確保する。
- 保護者が子どもの学ぶ姿を見て、認め、褒める。

(2) 読書について

- 家庭で本が読める環境づくりをする。
- 学校図書館や市立図書館を活用し、多くの本に接することができるようにする。